

東京都公文書館だより

Tokyo Metropolitan Archives News

第7号

目次	
公文書館の書庫から	1頁
電子画像での閲覧方法	2頁
平成17年度所蔵資料展(第6回)開催のご案内	5頁
レファレンスの杜	6頁
新刊案内「都史資料集成」第6巻	7頁
当館のご利用方法	8頁

- 所蔵資料紹介 - 公文書館の書庫から



旗本・新見文書 「相撲取組」

横綱不知火諾右衛門と上覧相撲

天保14年(1843)9月、江戸城吹上に設けられた土俵上では熱戦が続いていました。将軍がじきじきに相撲を観覧する、いわゆる上覧相撲でした。力士にとってはまたとない晴れ舞台。いよいよ「これより三役」。裁くは立行司式守伊之助。クライマックスです。

まず、相生が「ヲシキリ(押し切り)」で柏戸を破り、小結に叶う扇子を受けます。続く対戦では友綱が「ツリマワシ、シタテナケ」という豪快な攻めで猪名川を一蹴しました。そしていよいよ迎えた結びの一番では、一人横綱不知火に大関劔山が挑みます。その結果はというと、劔山が左を差し、すかさず下手投げに来るところを、横綱が前に出て押し出しで勝利を飾りました(「相手左をさし、投ケニ参ル処おしきり申候」)。

記録によれば将軍家慶は、「横綱を締めし力やまさりけん 西の最手こそ 弓は取りけれ」という歌を添え、白真弓を贈っています。

旗本・新見文書の世界

上覧相撲の記録は「柳営日次記」をはじめとする公的な記録にも残されていますが、この史料はやけに詳しく取組の内容を記しています。江戸時代の相撲内容まで書き添えた史料はたいへんに珍しいものです。それもそのはず、ここに掲げたのは側衆として将軍の側近に勤め、おそらくもっとも間近で取組を観戦していたはずの新見伊賀守正路が書き留めた業務メモだったのです。

東京都公文書館所蔵の新見文書は、旗本新見家に残された、主として役職に関わる記録類からなる文書群で、平成16年度に修復を終えすべて閲覧が可能となりました。目付・大坂町奉行・側衆等を歴任した新見正路と、その父でやはり目付等を勤めた新見正登によって作成され、同家に残されたこれらの記録には、その役職を全うするためのさまざまな情報が収められています。

目付として江戸城の普請その他の検分に当たったことから、江戸城の細部にわたる図面があったり、城中での儀礼について将軍が発したきまりの言葉(「骨を折った」「めでとう、熨斗を」等)が記されていたり、新見文書ならではのと思われる内容が少なくありません。

当館では、東京都立図書館・江戸東京博物館とともに開催する所蔵資料展において、「新見文書コーナー」を設けてその一端をご紹介します予定です。もちろんすでに閲覧室での利用と、マイクロフィルムからの複写は可能となっています。

旗本研究はもとより目付・側衆などの職制に関しても貴重な内容を有する新見文書。多くの方の閲覧利用をお待ちしております。

電子画像での閲覧方法

平成17年11月1日から、当館の閲覧方法に、電子画像を閲覧できるシステムが稼働します。

これは、平成15年・16年に向け、国の緊急地域雇用創出特別基金事業で、館所蔵のマイクロフィルムから1,648万コマの画像変換を行いました。現在、画像からの閲覧ができる施設としては、国立国会図書館（関西館）や国立公文書館アジア歴史資料センターが有名です。地方公共団体としては、この様に大量の画像処理を行ったのは、当館が初めての試みとなります。

電子画像の公開対象資料は、東京府公文書（明治元年～昭和18年）、東京市公文書（明治22年～昭和18年）、江戸期・明治期史料、東京府刊行物、東京市刊行物、内田文庫（震災移転計画図を含む）の一部、警視庁・東京府公報（明治22年～昭和18年）、東京市公報（明治32年～昭和18年）、東京都公報（昭和18年7月～平成14年）となっています。

当館でこのような取り組みができたことは、平成3年から所蔵資料のマイクロ化事業がスタートし、明治元年から昭和18年までの府・市文書を中心にマイクロ撮影が終了していたことが、短期間に電子画像処理が出来たと思っています。

マイクロフィルムから電子画像へ

東京府・市文書については、個人情報が含まれています。個人情報保護が叫ばれる今日、個人情報の保護に関しては、過去の公文書といえども一定の処置をしなければなりません。

マイクロフィルムからでは、個人情報を覆うことはできません。今までは、紙にプリントアウトされた時点で処置してきました。電子画像にした結果、東京府・東京市の文書に含まれた、保護すべき個人情報については、全面又は一部分を被覆して保護することが可能になりました。（戸籍・本籍等）

保護されている箇所は、黒く被覆されていますのでご了解ください。

各資料の構成は、¹保存形態が簿冊（内容別で業務終了年度毎に綴られた公文書の固まりをいう。）単位で電子画像となっている資料は、東京府・市文書。²冊子（本）毎に表示されているのは、江戸期・明治期史

料、東京府刊行物、東京市刊行物、内田文書の一部。

³目次単位で画像が表示できる資料は、警視庁・東京府公報、東京市公報、東京都公報、内田文庫震災移転計画図となっています。

簿冊単位は、簿冊1冊分の内容が表示されます。当館の資料検索システムでは、東京府・市文書は件名（簿冊に綴られている公文書1件単位をいう。）単位で検索が可能となっていますが、電子画像は件名単位でリンクはしておりません。将来の課題として早急の検討が必要とされています。

電子画像の閲覧は、画像をDVD-RAMに記録していますので、DVD-RAMからの閲覧をお願いします。画像は非圧縮、400DPI、TIFF形式で作成され、タッチソフトは、「FujiMicroView」を使用し、検索と画像閲覧を行います。

閲覧方法

閲覧室にあるパーソナルコンピュータの画面で、富士山マーク（図1）を選択します。



（図1）

ビューワーが開くと、¹公文書 ²刊行物等 ³公報の階層が画面に表示されます（図2）。

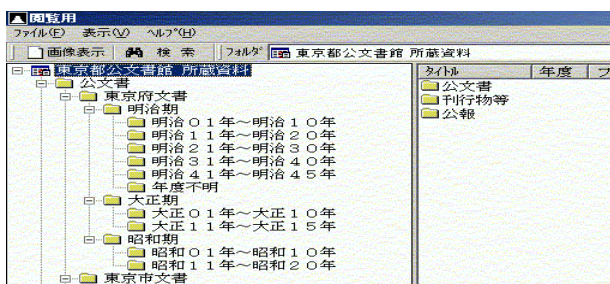


（図2）

ここでは、公文書を例にとり閲覧・検索の方法（階層検索・タイトル項目検索）を説明します。

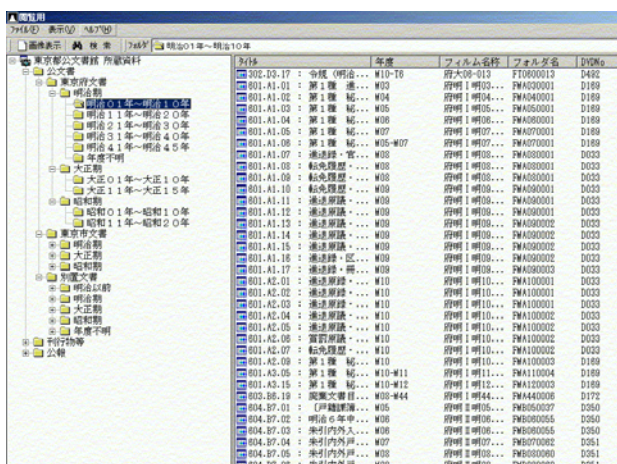
階層検索は、閲覧したいグループの 箇所をクリックすると、公文書は、東京府文書、東京市文書、別置文書の3つの階層が表示されます。各文書群の先頭にある を選択すると、各文書群が10年毎

に分かれます。(図3)



(図3)

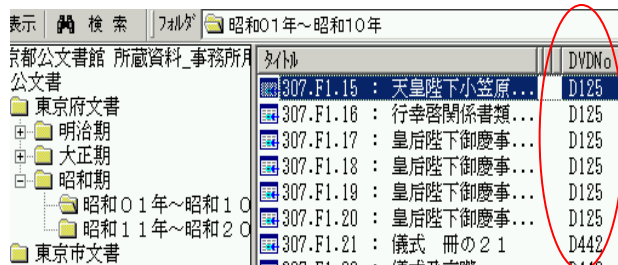
次に、希望する年度を選択すると、該年度の簿冊目録が表示されます(図4)。



(図4)

公文書の表示は、「タイトル」の欄に請求番号と簿冊名が表示され、閲覧したい「タイトル」=簿冊を選択します。

(図5)の画面には、請求するDVD-RAM番号が表示してありますので、その番号を閲覧申請書に記入します。



(図5)

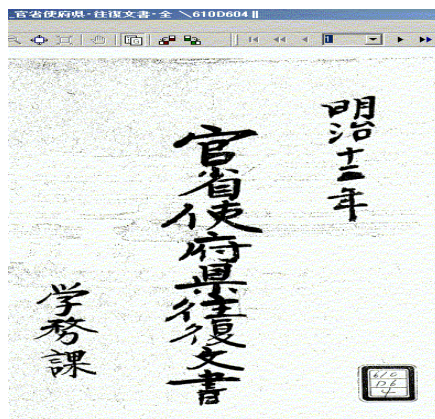
また、そのままタイトルを選択すると、頁の一覧が表示され、任意の頁を選択しても、DVD-RAM番号が表示されます。

閲覧請求後、DVD-RAMが手元に渡ったら、外

付けDVDドライブに、DVD-RAMの番号を上にしてセットします。

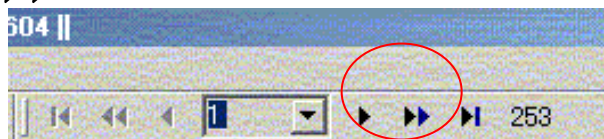
セット後、画面に「再試行」と「キャンセル」の表示が現れたら、「再試行」を選択してください。

画像の頁が現れ、任意の頁を選択すると、選択された頁が画像となって表示されます。(図6)



(図6)

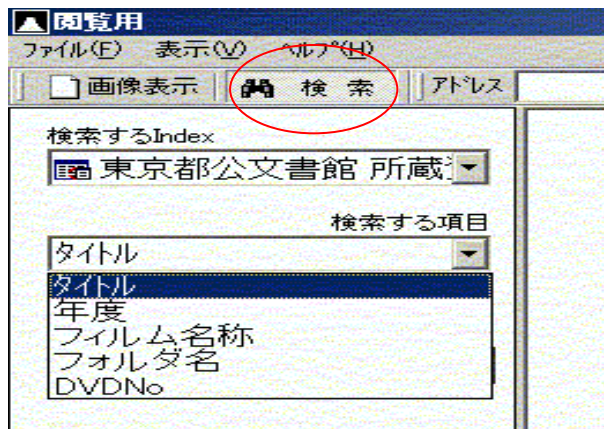
次の画像を見る場合は、ツールバーに頁を表示している欄の隣に、頁めくりの表示があり、▶ は1頁、▶▶ は自動で頁を送ります。(図7)



(図7)

タイトル項目検索

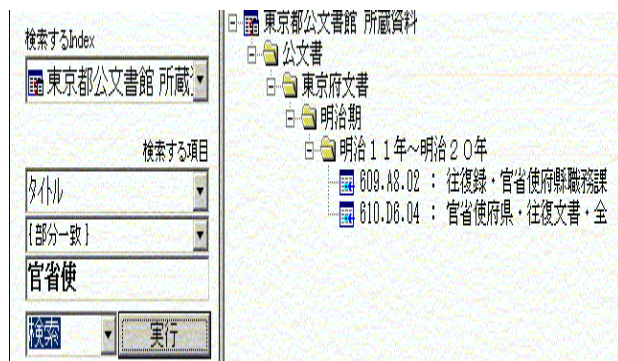
ツールバーの「検索」を選択すると、タイトル(請求番号と簿冊名)と年度及びフィルム名称、フォルダ名、DVD番号から検索できます。(図8)



(図8)

簿冊名から検索する場合は、タイトルを選択し、{部

分一致}を確認した上で、タイトルに含まれている文
字を入力してください。例えば「官省使」と入力し、
実行をクリックすれば、「官省使」の文字が含まれてい
る簿冊が表示されます。(図9)



(図9)

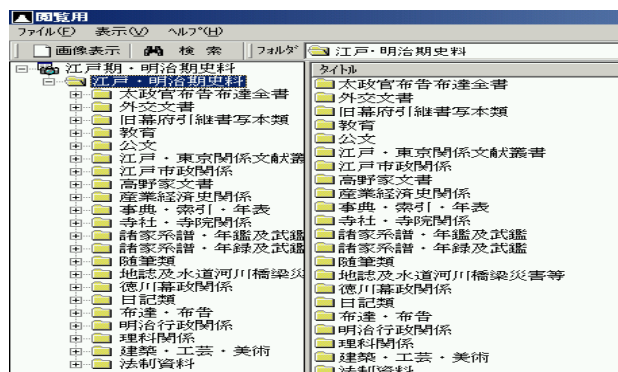
この検索の結果は、府・市文書全体の中で、「官省使」
の文字を含む簿冊は、東京府文書の明治11年から2
0年の中にある2冊が該当しましたという内容です。

目的の簿冊を選択すれば、DVD-RAM番号が表示され、(図5)以降と同じ手順で、DVD-RAM番
号を閲覧表に記入の上、閲覧となります。

江戸期・明治期史料の検索は、(図4)の刊行物等を選
択し

江戸期・明治期史料
を選択した後、画面に
(図10)の分類が表示された上で、タイトルの
欄から書名の検索を行います。江戸期・明治期史料
全体から、検索する文字を含んだ書名を表示します。

公文書は、第一画面で検索は出来ますが、刊行
物等や公報は第2画面(図10)まで進んで検索
を行うようになります。

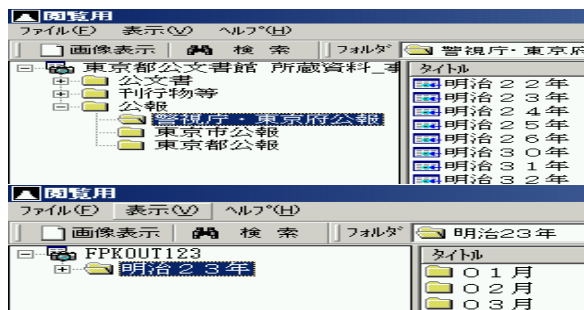


(図10)

以上が簿冊の形式の閲覧と検索方法ですが、目次を
検索する公報について説明します。

警視庁・東京府公報、東京市公報、東京都公報は各
公報名毎に、年度で区切られて構成されています。

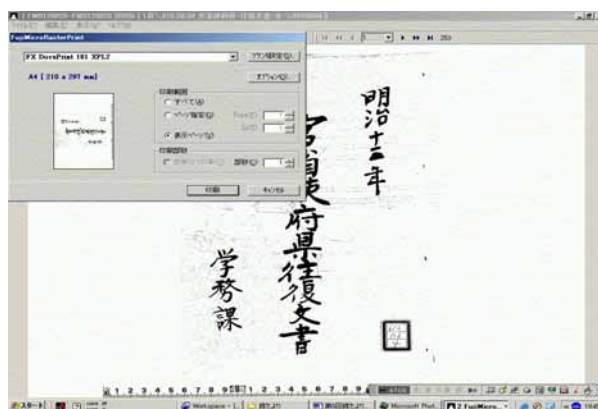
年度を選択した上で、条例・規則・告示やタイトル
に含まれる文字で検索をしてください(図11)。1年
ごとに検索し、数年を画像に表示することも可能です。



(図11)

印刷(複写)

電子画像で閲覧した結果、複写をする場合は、開い
た画像の左上の「ファイル」を開き、「印刷」を選択し
てください。(図12)の印刷設定画面が表示されます。



(図12)

印刷範囲に「表示ページ」が選択されていますので、
そのまま「印刷」をクリックしてください。現在表示
されている画面がB4サイズで印刷されます。以下(図
7)の頁送りが必要な頁を選択し印刷が出来ます。

複写料金はB4版1枚20円で、枚数の制限はあり
ません。

以上、簡単に電子化画像の閲覧方法をご紹介しまし
た。不明な点は窓口職員のお尋ねください。不十分な
点は、その都度改善をしていきたいと思っております。

常設展示を始めました。

平成17年9月12日から、当館1階ロビーにて、従来
のスペースを利用し常設の展示を行っています。三館
合同所蔵資料展のため10月21日までとなります。

平成17年度 所蔵資料展(第6回)開催のご案内

江戸城を建てる - 重文甲良家の図面を読む

平成12年度から開催して参りました所蔵資料展も本年で6回目となります。

昨年度に引き続き、東京都立図書館・江戸東京博物館と共同で、都立中央図書館において開催します。

今回は、東京都立中央図書館が所蔵する国指定重要文化財「江戸城造営関係資料(甲良家伝来)」が国庫補助事業により修復されたことを記念して、江戸幕府の大棟梁職を代々勤めた甲良家伝来の江戸城建築図面類を中心に展示します。

これらの図面類を縦系に、錦絵や大型模型、江戸の町触、幕府目付・側衆の文書、明治初年の写真や当館所蔵文書など、多彩な資料を横系にして、江戸城を「見る」「造る」「変わる」「歩く」という4つのコーナーに分けて再現します。

当館からの出展予定資料は以下のとおりです。このうち、新見文書(本誌1ページ参照)と明治宮殿関係資料は、新規公開資料となります。この機会にぜひご覧ください。

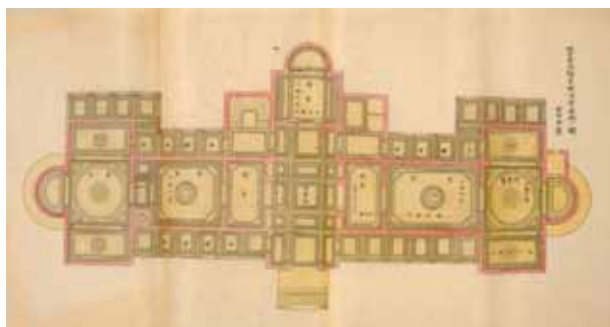
～当館ホームページにも関連記事掲載～

資料名/著者・作者・出版者等/年代/資料番号

- 紅葉山惣絵図 / / / 新見 654-10 上
- 相撲取組 / / / 新見 175
- 御作事方永代帳 / / / 655-13 上 CM172
- 撰要永久録 御触事 52 / / /
- 甲良家資料 / / / 655-12 CL8
- 勅使御下向一件 / (北町奉行所) / 慶応4年(1868) / 605.A4.5~8
- 東京城日誌 / / 明治元年(1868) / 634.D4.10
- 弁官御用留 / 東京府 / 明治2年(1869) /

605.A6.11

- 消防事務書類 / / 明治4年(1871) / 605.B6.8
- 雑綴留 / 消防方 / 明治5年(1872) / 605.D7.8
- 仮皇居内謁見所並会食所之図(皇居御造営誌巻三写) / 宮内省内匠寮 / 明治25年(1892) / 明治宮殿 56 < 下写真 >
- 明治十五年二月廿二日道路設計之図(皇居御造営誌巻四写) / 宮内省内匠寮 / 明治25年(1892) / 明治宮殿 54
- 殿中諸大名通路筋色分絵図 / 新見正登 / / 新見 No.100
- 八朔町人共御礼席絵図(「雨天」の図) / 新見 / 天明5年か / 新見 No.101
- [御目見之節御言葉並次第](2点) / / / 新見 No.186
- 地取并五人掛取組 / / / 新見 No.176
- 御目付諸心得書 / 新見 / / 新見 No.216
- 支配向勤方覚 / 新見 / / 新見 No.221
- 諸向之誓詞案之留 / 新見 / / 新見 No.223
- 溜り惣用場樋筥・小用箱絵図 / / / 新見 5



江戸城を建てる - 重文甲良家の図面を読む

開催期間：平成17年11月3日(木)～11月19日(土) 10:00～17:00

休館日 11月10日(木)

会場：都立中央図書館 4階 多目的ホール(東京都港区南麻布5-7-13 有栖川宮記念園内)

展示解説：開催期間中下記の日時に展示解説を行います。直接会場へお越し下さい。

11月3、5、13、19日 15:30～16:00

問い合わせ先 東京都立中央図書館 企画経営課 企画経営係

電話番号：03-3442-8451 内線2223

レファレンスの杜^{もり}

正午の午砲（ドン）が廃止された後にサイレンによる時報に切り替えられましたが、そのサイレンが設置された場所はどこですか？

ドンの反響家毎に箸の音 柳

正午を知らせる時報として皇居旧本丸跡で大砲を毎日一発ずつ打ちはじめたのは、明治4年（1871）9月9日（旧暦。新暦では1871年10月22日の日曜日）のことで、以来午砲（ドン）と呼ばれて長い間市民に親しまれてきました。最初は陸軍が所管しましたが、軍縮による経費削減のため大正11年（1922）9月15日限り陸軍は手を引き、後は東京市が引き継いで東京市号砲所となったのです。

この午砲（ドン）は昭和4年（1929）4月30日限り廃止され、翌5月1日から号笛（サイレン）にとってかわられます。60年間鳴り響いていた午砲（ドン）を廃止する理由について、当時の新聞は、（1）宮城内に非常に強く響くのではなはだ恐れ多いということと、（2）一発打つのにその頃のお金で19円もかかり、経費的な負担が大変だという、東京市の言い分を紹介しています。

市当局は、もっと安上がりで近代的な時報のシステムを模索した結果、陸軍技術本部が空襲警報用に開発した装置を時報に応用することにしたのです。

号笛（サイレン）の設置場所は、愛宕山公園（現・港区）、本所公会堂内（現・墨田区）、小石川高等小学校内（現・文京区）の3か所。最初のふれこみでは、それぞれ周囲約7kmの範囲に鳴り響き、今までドンの聞こえなかった町々まで完全にカバーするはずだったのですが、翌5年（1930）4月12日、丸ノ内号笛所と上野号笛所の2か所を追加しているところをみると、計算どおりにはいかなかったのかもしれませんが。

昭和7年（1932）の東京市域拡張により、いわゆる大東京市が成立すると、新市域を中心に、あらたな号笛所が設置されました。

まず、昭和9年（1934）4月1日には、大

崎号笛所外12か所が、次いで昭和12年（1937）4月1日には高輪号笛所外6か所が設置されました。最初から数えて全部で25か所設置されたこととなります。それをまとめたものが以下の表です。

正午の時報をしらせるサイレンが廃止されたのは、昭和16年（1941）12月8日、太平洋戦争開始の日でした。戦争開始とともに、東京市は警視庁と協議の上、8日夜から灯火管制規則第4条により灯火管制を実施することになりました。この戦時防空体制への移行にともなって同日正午から、警報とまぎらわしい午報用のサイレン吹鳴を中止したのです。

時報用サイレン設置場所一覧

設置年月日	号笛所名	場所	現区名
昭和4年5月1日	愛宕号笛所	愛宕山公園	港区
同上	本所号笛所	本所公会堂内	墨田区
同上	小石川号笛所	小石川高等小学校	文京区
昭和5年4月12日	丸ノ内号笛所	麹町区丸ノ内1-1、丸ノ内ビルヂング屋上	千代田区
同上	上野号笛所	下谷区上野公園東京博物館屋上	台東区
昭和9年4月1日	大崎号笛所	品川区東大崎4-160、立正大学内	品川区
同上	池上号笛所	大森区池上本町71、東京市池上尋常小学校	大田区
同上	駒沢号笛所	世田谷区深沢町1-3408、駒沢大学内	世田谷区
同上	代々木号笛所	渋谷区代々木西原町983、文部省体育研究所内	渋谷区
同上	杉並号笛所	杉並区阿佐谷1-715、東京市杉並区役所内	杉並区
同上	目白号笛所	豊島区目白町2-1625、東京市高田第五尋常小学校内	豊島区
同上	三河島号笛所	荒川区三河島町4-3445、東京市第一峡田尋常小学校	荒川区
同上	飛鳥山号笛所	王子区王子町飛鳥山1、飛鳥山公園内	北区
同上	練馬号笛所	板橋区練馬春日町1-2662、東京市練馬尋常高等小学	板橋区
同上	西新井号笛所	足立区西新井町939、五智山總持寺境内	足立区
同上	向島号笛所	向島区吾嬭町4-47、東京市第四尋常小学校内	墨田区
同上	葛飾号笛所	葛飾区青戸町3-2821、東京市亀有尋常高等小学校内	葛飾区
同上	小松川号笛所	江戸川区東小松川3-323、東京市松江尋常高等小学校	江戸川区
昭和12年4月1日	高輪号笛所	芝区単町60、高輪中学校	港区
同上	渋谷号笛所	渋谷区上通2-55、東横百貨店	渋谷区
同上	新宿号笛所	淀橋区角管1-1、三越新宿支店	新宿区
同上	市谷号笛所	麹町区九段4-4、東京市道路敷上	千代田区
同上	神田号笛所	神田区金沢町22、東京市芳林尋常小学校	千代田区
同上	京橋号笛所	京橋区越前堀3-2、三菱倉庫株式会社	中央区
同上	浅草号笛所	浅草区雷門2-15、浅草区役所	台東区

東京市公報によって作成

参考文献

石井研堂著『明治事物起原』

東京市公報（東京市、東京都公文書館所蔵）

市政週報（東京市、東京都公文書館所蔵）

読売新聞・朝日新聞

新刊案内 『都史資料集成』第6巻 関東大震災と救護活動

近年、多大な被害をもたらした阪神・淡路大震災や新潟県中越地震をはじめ、日本各地で大規模な地震が頻発しています。一方、東海・南海地域における海溝型巨大地震や首都東京を含む南関東地域直下での大地震の発生が懸念されています。

こうした状況の中で、防災に対する関心も非常に高まりをみせ、過去の災害記録から、きたるべき災害に備え、新たな教訓や対策を引き出そうとする動きが活発になっています。

東京の近代史に関するテーマ別資料集である『都史資料集成』の最新巻である第6巻においては、大正12(1923)年9月1日に東京を襲った未曾有の都市災害であった関東大震災についてとりあげています。具体的には救護活動の最前線にあった旧東京市が、震災直後から発行した「非常災害救護情報」甲号(全167号)を全て収録しました。

同資料は、謄写版(ガリ版)印刷により1日にほぼ2回発行されたもので、市役所内や救護活動にあたる関係諸団体への情報伝達を目的とした、内部向けの業務情報紙です。東京市内の水道・電気や市電(路面電車)など、ライフラインやインフラの復旧状況、各行政組織及び諸団体が実施した救護活動の状況をはじめ、様々な情報が克明にリアルタイムで描かれています。

例えば、ボランティア(当時は「救護団」「応援団」などと呼ばれていました)の活動については、毎日のように活動内容が掲載されており、10月17日に発行された甲第89号では、それまで救護活動にあたってきた諸団体の名称・人数・作業内容・作業場所の一覧が掲載されています。これを読むと、東京近郊はもとより、遠く北海道や山口県など全国各地から、青年団や消防組などの単位ごとに、多くの人々が駆けつけています。そして、食料の配給や炊き出しをはじめ、テントや仮設住宅の設営、焼け跡の片付けや清掃活動、被災者に関する調査など多岐にわたってボランティア活動を行っていたことがわかります。

また、本書には別冊付録として、「非常災害救護情報」と同時発行されたテーマ別の調査記録である「非常災害情報」乙号から、仮設住宅(バラック)に関する資料と、避難所のひとつである芝尋常小学校(現在の港区立芝小学校)が作成した、「芝尋常小学校避難者収容所報告書」を併せて収録しています。いずれも、仮設住宅や避難所での生活の実態がうかがえる貴重な資料となっています。

関東大震災直後の救護活動に関する詳細な資料集として、研究者はもちろんのこと、災害対策にあたる各行政の防災担当者やボランティア団体など、多方面の方々に広くご利用いただくことを願っています。



『都史資料集成』第6巻「関東大震災と救護活動」は、下記で販売しています。

場所：都民情報ルーム(都庁第一本庁舎3階)

住所：〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

電話：03-5388-2276(直通)

価格：5,060円

当館のご利用方法

来館について

当館の閲覧や複写に予約の必要はありませんが、次のような場合は、事前にご連絡ください。

- ・ 専門的な調査や、古い資料についてのご相談
- ・ 大量に資料を利用したい場合
- ・ 撮影したい場合

入館の注意点

当館1階入口で入館受付を済ませます。バッグ等お荷物をお持ちの方は、閲覧室の中に設置のロッカー（無料）に、筆記用具以外の持ち物を入れてください。

閲覧方法

窓口担当職員に、お調べになりたいものをお話してください。お調べの内容に沿うような目録やパソコンによる検索で、閲覧したいものを特定し、当館にそなえてあります「閲覧票」にご記入・ご提出ください。職員が書庫からお出します。

また、資料でマイクロフィルム化されているものは、原本保護のためマイクロフィルム閲覧室で閲覧をお願いします。

複写について

複写を希望される方は、当館に備えてあります「複写申請票」にご記入・ご提出ください。電子式複写は、一人又はグループで1日20枚までです。ただし、マイクロフィルムからの複写については枚数制限がありません。いずれも1枚20円で複写できます。小銭をご用意ください。

閲覧・複写できる資料

当館の資料は原則としてご利用できますが、次のものは除きます。

作成又は取得をして30年を経過していない公文書
「東京都公文書館における公文書等の利用に関する取扱規程」第2条第2項又は第3項により一般の利用が制限されている次の公文書等

- ・ 個人情報等が記録されているもの
- ・ 利用によって破損や汚損を生じるおそれがあるもの
- ・ 現に館において使用しているもの（目録作成など保存及び利用の開始のため館において使用しているものを含む。）
- ・ 一般の利用に供しないことを条件として寄贈された資料

利用案内・交通案内

【利用案内】

開館日時

- ・ 月曜日から金曜日まで（9時～17時）

休館日

- ・ 土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- ・ 臨時の休館日として公示した日

閲覧停止日

- ・ 奇数月の第3水曜日（祝日の場合は翌日）

【所在地】 〒105-0022

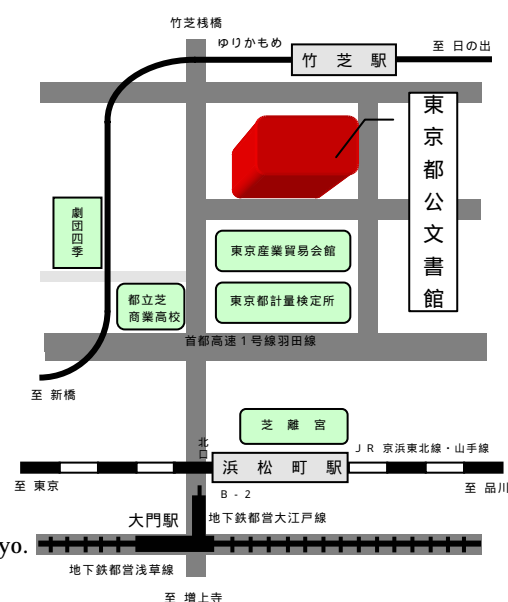
東京都港区海岸1-13-17

【TEL】 03-5470-1334

【FAX】 03-3432-0458

【ホームページ】 <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives>

【案内図・交通機関】



JR「浜松町」駅北口（新橋方面）下車（徒歩7分）
地下鉄都営大江戸線浅草線「大門」駅（B-2）下車（徒歩9分）
東京臨海新交通（ゆりかもめ）「竹芝」駅下車（徒歩2分）
都営バス「竹芝棧橋入口」下車（徒歩0分）
[浜95 東京タワー品川車庫]
都営バス「竹芝棧橋」下車（徒歩2分）[虹01 浜松町 国際展示場駅]

平成17年度登録第4号

平成17年11月4日発行

編集・発行 東京都公文書館

印刷 シンソー印刷(株)